

湖西地域の県立高校の魅力化について(案)

1 県立高校を取り巻く状況

(1) 高校魅力化に向けた最近の主な取組

- 高校再編計画(平成24年12月策定)に拠る県立高校の魅力化
 - ・ 湖東地域、湖北地域において再編統合を実施
 - ・ 学科改編等により各地域において魅力と活力ある学校づくりを推進 等
- 湖北地域(虎姫高校)における国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)の導入

(2) 県内中学校卒業者の推移 資料1

- 14,226人(H24) → 14,299人(H30) ※ほぼ横ばい
 - 14,299人(H30) → 13,288人(R3) → 12,384人(R14)
- ※ 平成30年度から令和3年度までに▲1,011人(約25学級相当の減)

2 湖西地域2校を取り巻く現状と課題

- 地域内生徒数の減少(総合学科への改編時[H12]と比較)
 - ・ 高島11学級 → 5学級(H31～)、
安曇川9学級(普3・総6) → 4学級(普1・総3)(H30～)
- 地域内中学生の学校選択の変化 資料2
 - ・ 地域内で進学する割合は、近年、他地域に比べ低下傾向が顕著
- 学校活力の低下の懸念
 - ・ 地域外の学校選択の加速化 資料3
近年、進学実績のある大津・湖南地域の県立高校や、県内外の部活動で実績のある高校等へ進学する中学生が増加
→ 2校の現在の学校規模の維持が想定以上に早い段階で困難になる予想
 - ・ 安曇川高校の定員未充足が深刻な状況 資料4
H31入試: 2次選抜後、安曇川高校普通科5年連続、総合学科4年連続
1次選抜後、普通科13年連続(H19～)、総合学科6年連続

3 湖西地域2校の魅力化

(1) 対応の必要性 ～喫緊の課題への対応～

- これまで教育内容の充実に努め、高校の教育力の向上を図るも定員は充足せず
→ SSH連携(H26-27、H30-R2)、ICT活用(H30-R2)等
 - 令和3年度から、地域内生徒がさらに減少する中、さらなる定員未充足により活力が失われることを懸念
 - 指定事業や募集定員削減等による課題対応ではなく、喫緊の課題として、できる限り早急に抜本的な改革が必要と思料
- ※ 平成12年度に安曇川高校商業学科を総合学科に改編して以後、大きな改革は未実施 資料5

(2) 対応の方向性（案）

湖西地域の高校は2校という地域性を考慮し、分散している学びを整理して地域における両校の特色を明確化し、その魅力化に一層取り組むことで、中学生が選択する学校づくりを進める。

□ 具体的活性化策

- 普通科の在り方を見直し、学科改編を実施
 - ・ 安曇川高校普通科の学びは高島高校に引き継ぎ、進学指導に重点を置く新たな学科で特色化（安曇川高校普通科は募集停止）
- 総合学科の系列を見直し、新たな系列で学びを充実させ魅力化
 - ・ 生徒の高校卒業後の進路状況を踏まえた新たな学びの系列を設置

高島高校						安曇川高校				
【平成29年度】										
普通科						普通科	総合学科			
1学級	2	3	4	5	6	1学級	1学級	2	3	4
【平成30年度】										
1学級	2	3	4	5	6	1学級	1学級	2	3	1学級減
【令和元年度】										
1学級	2	3	4	5	1学級減	1学級	1学級	2	3	
↓						↓				
【令和3年度以降】										
新学科	普通科					普通科	総合学科（新系列設置）			
1学級	1学級	2	3	4	募集停止	1学級	2	3		

* 令和3年度以降の募集定員（学級数）は想定数であり、中学校卒業予定者数や進学志望の動向等を総合的に勘案して策定

(3) 今後の進め方

7月4日 教育委員会

「湖西地域の県立高校の魅力化について（案）」

※ 以降、関係者等からの意見を反映させながら具体的な魅力化の方針を検討
10月頃 「（仮称）湖西地域県立高校魅力化方針」策定

4 将来の県立高校の魅力化に向けた検討

□ 将来の県立高校の在り方に関する検討の方法について、今年度中を目途に整理

※ 高校再編計画（平成24年12月策定）の計画期間はおおむね10年間